

## 夢を夢で終わらせないために

岩手県立盛岡農業高等学校 動物科学科 1年 藤田 遥翔

私の家は岩手県の北部に位置する八幡平市という所にあります。岩手山の麓に位置する八幡平市は、山々に囲まれ緑豊かで農業の盛んな場所でもあります。

そんな場所で私の家族は酪農を営んでいます。

私の祖父が始めた酪農は、最初は16頭からのスタートでした。父が20歳で牛舎を増築し46頭へ、その後も増築をくり返し今では100頭規模の牛舎となりました。

幼い頃から両親と共に牛舎へ行き牛と触れ合い育ってきました。私にとって牛舎とは楽しい場所でした。妹とチョークで落書きをしたり、自転車に乗ったり。保育所や学校から帰るとすぐに牛舎に行くのが日課になっていました。

しかし、東日本大震災の時は違いました。その時、私はまだ4歳でした。いつもとは違う牛舎。電気がつかない、乳が張って鳴き叫ぶ牛達。両親はトラクターのライトで牛舎の中を照らし、小さな発電機を使って、46頭の牛を1頭1頭搾乳していました。雪の降るとても寒い日でした。搾乳が終わったころには、もう朝を迎えようとする時間になっていたそうです。それでも数時間後には、また搾乳をしなければならない。そんな大変な両親をそばで見たのは初めての体験だったと思います。生き物を飼うということは、命を預かることです。牛の命、飼い主である両親にかかっているのです。両親のそばで大変なことや悲しい事もたくさん見てきました。それでも、それ以上に酪農の楽しさ、喜びも家族みんなで共有してきたと思います。牛舎作業やトラクターに乗る父を見て「いつか自分も父のような酪農家になりたい!」と思うようになりました。

今、私にできることは、毎日学校に登校する前に搾乳を手伝うことです。そして、休みの日は牧草収穫の手伝いもしています。大変なこともありますが、それ以上に酪農という仕事にどんどん魅了されている自分がいます。

将来の夢を叶える一歩として私は農業高校へ進学しました。同じ夢を目指す仲間がいるということは、とても刺激的で心強く感じています。まだ入学して半年ほどですが学べることへの喜びと期待で溢れています。

私が経営者となったとき、まず取り組みたいことは、質の良い牛乳を出荷し続けることです。私の家では6年連続8回の乳質改善大賞を受賞しています。1年間毎月2回の牛乳検査で一定の基準をクリアしなければなりません。それは簡単なようでとても難しいことなのです。牛の体調に目を配ること、それに合わせた餌の配分を考えたりします。また、牛群検定を活用し、乳質の悪い牛はすぐに治療します。人の口に入るものだから安心安全はもちろん、自信を持って提供できる牛乳を生産していきたいと思っています。

次に耕作放棄地の利用です。現在、日本では高齢化が進み農業を辞めていく人が増えています。私の家の近くでも実際水田だった所が今ではただ草が生えて荒れている土地が見られます。そのような土地をなくすための活動をしたいと考えています。しかし、私一人では限度があります。そこで耕種農家と耕畜連携を組み、畜産農家の堆肥を活用し、飼料米の生産や稲わらの提供をしてもらう、このようにすることによって、肥料代や飼料代の節約、耕作放棄地の減少化につとめられると思います。

そして次に力を入れたいことは、未来の酪農家を志す若者の育成としてインターンシップの受け入れです。実際に仕事の現場を経験してもらう事により、見た目だけでは伝わらない酪農の大変さや牛と関わる楽しさを伝えていきたいです。そして実際に牧場で働きたいかどうかを真剣に考えてもらえる場所として機会を与えられるような牧場を目指したいです。さらに、酪農教育ファームの活動を行いたいです。沢山の子供達に実際に牛と触れ合ってもらうことによって生き物の命の大切さや酪農という仕事について知ってもらいたいです。私自身が学びたいことの1つに牛の改良があります。小学校6年生の時に初めてリードマンとして共進会に出場しました。人生で初めてリードした牛が1位に選ばれたときの喜びは今でも覚えています。その時からもっと良い体型の牛を作り上げたいという気持ちが芽生えてきました。また、体型だけでなく乳牛本来の乳量タイプも考慮し、種雄牛の選別や受精卵の活用をしていきたいです。そして、ゲノム検査も取り入れたいです。子牛のときにゲノムを検査することによって、育成牛の選抜や交配計画をスムーズに進められると思います。

今まで書いてきたように叶えたい夢は沢山あります。しかし、今の私には、ほとんどといっていいほど知識はありません。ただ手伝いとしての作業をこなしているだけです。今、学校では1年生ということもあります、牛についてまだ専門的なことは学んでいません。けれど2年生になると専攻班に分かれます。そこで大動物班に進み、本格的に牛について学ぶことができると思います。しっかりと基礎を身に付け、卒業後は北海道の専門学校へ進学し、更に先進的な酪農家へ実習にも行きたいと思っています。まだ知らない知識や技術を身に付け、自信を持って後を継ぎたいです。

しかしながら現在、日本の畜産業は飼料高騰、原油高、資材高騰の影響などで深刻な状況にあります。日本の酪農業に関しては92%以上が「経営を困難」に感じており、約97%が「経営の悪化」、65%以上が「赤字」というデータがあります。実際、私の家もとても苦しい状況にあります。先の見えない未来にまだ高校生の私でさえ不安を覚えてしまう状況です。私の夢である酪農は夢で終わってしまうのでしょうか。

未来の農業経営を目指す若い私たちには沢山の方々の協力と手助けが必要です。学校では、飼料の作成や、牛の改良について現場の先生方が指導してくれます。牛の消化器官について教えてくれる先生がいます。また、農協やヘルパー組合などからは、インターンシップの案内が

---

届きます。さらに、地域では私の家で生産した牛乳を加工してアイスクリームにしてくれる方がいたり、耕畜連携によってお互いの経営を応援し合う仲間がいます。そして、私はこれから高校、専門学校で沢山の友人を作り、その一生の友人と将来、経営について気兼ねなく相談し合い、お互いに高めあっていくと思います。そうやってたくさんの人の力を借りながら、今の困難もこれから予想される困難も乗り越えていきたいと強く思います。

夢を夢で終わらせないために